

交感神経系腫瘍の局在診断における ^{123}I -MIBG シンチグラフィの 臨床的有用性の検討

第 III 相多施設臨床試験報告

石井 勝己*¹ 久保 敦司*² 日下部きよ子*³ 村田 啓*⁴
正木 英一*⁵ 堀池 重治*⁶ 林 夙*⁷ 原 裕子*⁸

*¹ 北里大学医学部

*² 慶應義塾大学医学部放射線科

*³ 東京女子医科大学病院放射線科

*⁴ 虎の門病院放射線科 (現：放射線医学総合研究所)

*⁵ 国立小児病院放射線科

*⁶ 北里大学医学部放射線科

*⁷ 東京都立清瀬小児病院外科

*⁸ 同 放射線科

要旨 交感神経系腫瘍の検出における ^{123}I -MIBG の臨床的有用性を評価するため、褐色細胞腫、神経芽細胞腫、甲状腺髄様癌などの患者 48 名を対象に第 III 相臨床試験を実施した。うち 3 名には 2 回本検査を行い、脱落症例 1 症例を除く 50 症例、140 部位において有効性を検討した。判定不能の 7 部位を除く 133 部位中 51 部位で真陽性、79 部位で真陰性、1 部位で偽陽性、2 部位で偽陰性であった。Sensitivity, Specificity, Accuracy はそれぞれ 96.2%, 98.8%, 97.7% であった。有効性は判定不能 2 症例を除く 48 症例において、「有効な情報が得られた」とされた。撮像時期は、投与後 4 時間～翌日の間に 1 回とすることが適当であると考えられた。また、 ^{123}I -MIBG に起因すると思われる自覚症状、身体所見の異常および臨床検査値の異常変動はなかった。以上より、本剤は交感神経系腫瘍の検出において安全で有用な薬剤であると考えられた。

(核医学 37: 43-59, 2000)